

<呼吸器センター内科>

G10 (general instructional objective)

呼吸器疾患を幅広く経験することにより、同領域の疾患および病態を理解すると同時に、肺癌、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、気管支喘息、間質性肺炎など頻度の高い病態については、基本的な臨床的マネジメントが行えることを目標とする。

SBOs (specific behavioral objectives)

- (1) 基本姿勢
 - (ア) 病態の把握ができる病歴聴取を心がける。病態の理解を深める。
 - (イ) 医療面接、身体診察法から予測できる病態を述べることができる。
 - (ウ) 患者および家族への適切なインフォームドコンセントを行うことができる。
- (2) 診察法・検査・手技
 - (ア) 身体診察法（とくに呼吸音の聴診）を正確かつ要領よく行える。
 - (イ) 呼吸器疾患の病態を評価するための検査計画が行える。
 - (ウ) 胸部単純X線写真ならびに胸部CTを読影する。
 - (エ) パスオキシメーター、動脈血ガス分析、呼吸機能検査の結果を解釈できる。
 - (オ) 感染症に対して細菌学的検査を行い、適切な抗菌薬を選択することができる。
 - (カ) 気管支鏡検査の適応を理解し、気管支内腔の観察を実施できる。
- (3) 症状・病態への対応
 - (ア) 行った検査の評価ができる。
 - (イ) 頻度の多い呼吸器疾患（気管支喘息、肺気腫、肺炎、肺癌、間質性肺炎、気胸など）の基本的な評価と対処ができる。
 - (ウ) 手術症例の適応決定と術前評価ができる。
 - (エ) 緊急を要する病態（主に呼吸不全）の理解と対応ができる。
 - (オ) 人工呼吸管理（侵襲的・非侵襲的）を実施できる。
 - (カ) 緩和医療の実践ができる。

LS1 (learning strategy 1) On the job training

- (1) 上級医の指導のもとで入院患者の診療を行い、呼吸器疾患の知識、手技、治療を習得する。
- (2) 上級医の指導のもと10～15人の入院患者を担当する。
- (3) 週2回の部長回診に参加し、症例の提示を行う。
- (4) 上級医の指導により、さまざまな呼吸器疾患の診療を計画し、実施する。

LS2 (learning strategy 2) 勉強会・カンファランス・学会など

- (1) 呼吸器疾患で手術治療を必要とする症例の術前カンファランスでの提示を行う。
- (2) 上級医により行われるクルズスに参加し、呼吸器疾患全般の理解を深める。
(週1回)
- (3) 興味をもった症例や病態に関する論文を読み、上級医の指導のもとに抄読会で発表する。

曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
A M	病棟業務	9:00 ~ 回診	病棟業務	病棟業務	8:30 ~ 抄読会 9:00 ~ 回診
P M	病棟業務 13:30 ~ 気管支鏡	病棟業務	13:30 ~ 気管支鏡 14:00 ~ 画像カンファ 15:00 ~ 病理カンファ	15:00 ~ 外科カンファ クルズス 16:00 ~ CT ガイド下生検	病棟業務

EV 評価

EPOC による評価方法 (研修医 指導医)

研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、EPOC 評価システムに入力をする